資料④６年

単元終了後に現れると想定する児童の姿　６年生

ア：言葉そのものへの興味・関心
　新しい言葉や表現に興味をもち、その意味や使い方を知ろうとしたり書き留めたりしている。
イ：自己内対話
　自分の伝えたいことが明確になるように、言葉や表現を吟味して書こうとしている。
ウ：他者とのコミュニケーション
　①表現の工夫等に着目し、伝える側の気持ちや考え、場面の様子等を想像しながら読んでいる。
　②自分の表現が相手に伝わるかどうか考え、言葉を選んだり付け加えたりしながら書いたり話したりしている。

想定される本単元で獲得した言葉の力を活用しようとしている場面

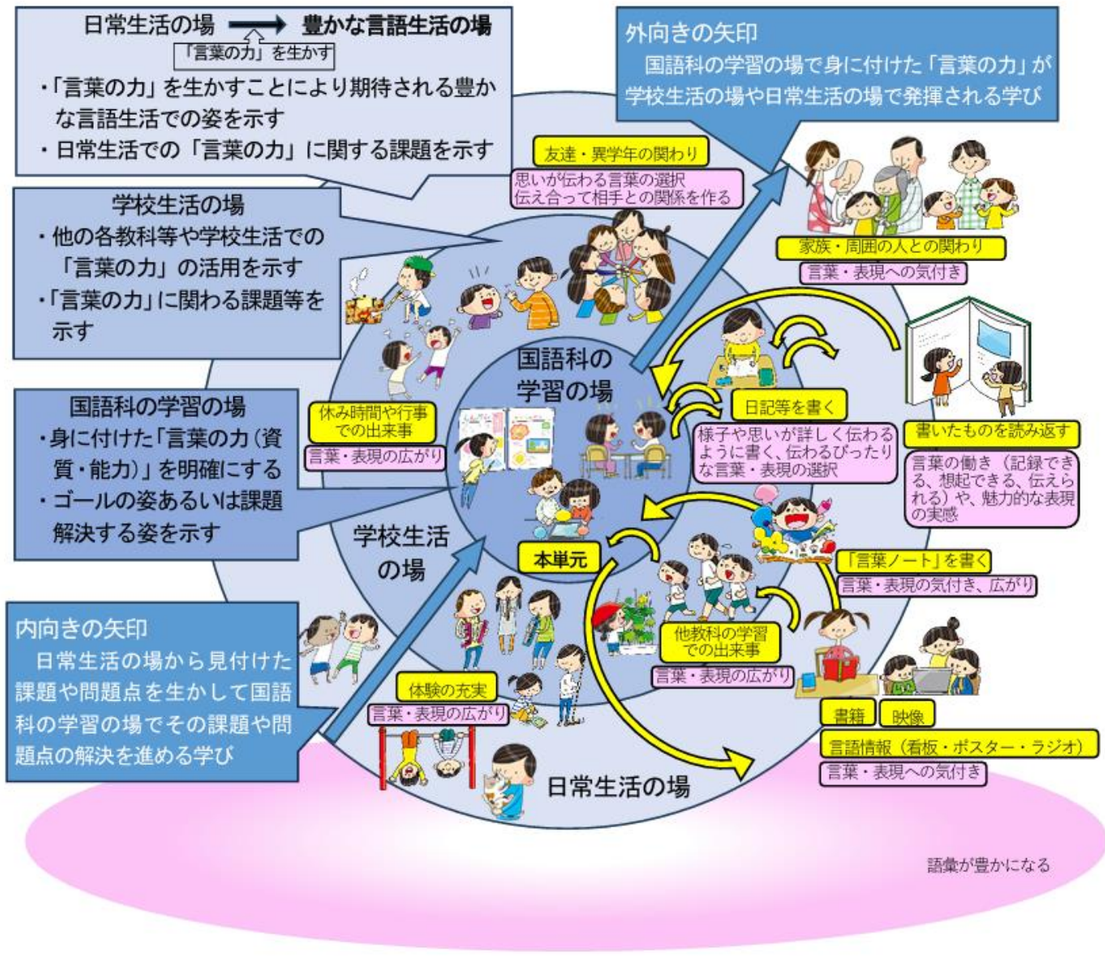
場面	具体的な姿
学習	ア:「書くこと」の学習「知ってほしい、この名言」では、知恵や教えを伝える名言を収集したりして、その言葉がもっているよい影響を感じ取っている。 ア:「書くこと」の学習「おすすめパンフレットを作ろう」では、推薦したいものに応じた、魅力を伝えられる言葉を集め、それぞれがもつ印象を比較して吟味している。 イ:「書くこと」の学習「大切にしたい言葉」では、題材に関連した経験や考えがどのようなものかが伝わるように、書き表し方や表現を工夫したり、よりぴったりだと感じる言葉を探したりしながら文章を書いている。 ウ①:「読むこと」の学習「考えるとは」では、筆者である三人や友達がもっている「考える」という言葉の意味を文章から読み取り、自分自身の考えを照らし合わせながら交流している。 ウ②:「話すこと・聞くこと」の学習「今、私は、ぼくは」では、小学校生活の今までを振り返り、自分が友達に伝えたい内容について言葉や表現を工夫して話し、自分の思いを効果的に伝えることの意義を感じている。
学校生活	ア:国語に限らず、他教科や学校生活の中で出合った言葉に関心をもち、その意味を覚えたり活用したりしている。 イ:各教科の学習や卒業に向けた活動の振り返りをするときに、自分がどう考え、感じているのかを言語化し、思いが明確になるように書いたり話したりしている。 ウ①:学校生活の中で、友達や教職員を相手にして、書かれている表現や言葉に着目しながら読み、相手が伝えている内容、思いや考えなどを捉えようとしている。 ウ②:各教科の学習や特別活動の話合いで、自分の思いや考えを明確に伝えようという意識をもって、表現や言葉を選ぼうとしている。
日常生活	ア:自分の関心のある趣味や出来事、習い事等で出合った言葉に関心をもち、調べたり集めたり活用しようとしたりしている。 イ:自分が経験したことを焦点化したり、家族や親戚、友達、近所の人や関わる人々に対して自分の伝えたいことを明確にしたりして書いている。 ウ①:日常生活の中で得る情報について、表現や言葉等に着目しながら読み、その意図や効果を意識して、情報の正誤や適否を考えながら情報を受け止めようとしている。 ウ②:日常会話の中で、自分の思いや考えを正確に伝えられる表現や言葉を選択し、書いたり話したりしようとしている。

言語部では、実生活の中に課題を見付けて単元化し、単元の学習を通して高まった言葉の力が実生活に還っていくような単元づくりを心掛けている。

本帯単元では、自身の経験や思いをブログとして継続的に短文で表現し、互いに読み合うことで、「比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」「語彙を豊かにし、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」といった言葉の使い方についての気付きや、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」力を段階的に高めていく。経験や思いに対してコメントを交流する楽しさからスタートし、１学期には「表現の工夫を取り入れて文章を書くこと」、２学期前半には「様々な文章表現の工夫を知り、互いに評価して高め合うこと」、２学期後半には「自分自身がどのような文章を魅力的だと感じるかを探り、工夫して文章を書くこと」を学んでいく。最終的には、小学校生活最後のまとめとして、卒業文集に生かしていくことを想定している。年間を通した取組であるため、各小単元での学びを次の単元までの間にも活用し、力の獲得を目指すことができる。また、実生活（学校生活や日常生活の場）の中でも、学びを生かすことが期待できるだろう。

本帯単元は、学習、学校生活、日常生活の場を往還して進んでいく単元である。実生活と学習を往還しながら学ぶ経験を重ねていくことで、児童の語彙を豊かにしていくことができる。そのことが、児童の言語生活を豊かにしていくことにつながるのである。

【図「言葉の力」を生かすことで、豊かな言語生活を実現することについて】（都小国研：R７６月）に追記



参考「豊かな言語生活者を育てる　ー国語の単元開発と実践ー」桑原隆　編著

作品例：「階段から落ちた」

ある朝、駅の階段をふみはずして、２段分落ちた。壁に近い一部分だけ、幅が違っていたのに気が付かなかった。左の足首が変な方に曲がって、痛かった。でも、痛いことより、しまったという思いが大きかった。動くので、骨は大丈夫そうだが、みるみるはれてきた。もうすぐ夏休みも終わる。私のクラスは４階だ。２週間後には移動教室もある。歩けなかったらどうしようとあせった。

次の日。お医者さんが「３日もすれば普通に歩いて大丈夫。しばらく痛いけどね。」と言ってくれた。とりあえず、学校には行けそうで安心した。移動教室に向けて、無理はしないで過ごそうと思う。

題名
オノマトペ
暗喩
体言止め
くり返し

作品例：「空が飛べればいろいろ解決」

足元が消えた。あっと思う間もなく、体のバランスがくずれる。朝の駅の階段、残り２段。壁に近い一部分だけ幅が違うことに気が付かなった。左の足首がぐにゃっと変な方に曲がった。痛い、よりも、しまった、が大きい。動くので骨は大丈夫そうだが、みるみるはれてきた。まずい。私のクラスは４階だ。２週間後には移動教室もある。どうしようという思いがぐるぐると頭の中をかけめぐった。

次の日。お医者さんが「３日もすれば普通に歩いて大丈夫。しばらく痛いけどね。」と言ってくれた。とりあえず、学校には行けそうだ。よかったよかった。胸をなでおろした。移動教室に向けて、無理はしないで過ごそうと思う。